

### 感謝のことは

交通指導員の皆さんへ

6年3組 品川雄基

毎朝、ぼく達の通学を見守ってくださり、ありがとうございます。通学中に学校前の信号や交差点で、ぼく達の安全を守ってくれたおかげで、ぼくは六年間安心して通学する事ができました。

そして、安全を守るだけでなく、毎日「おはよう」「いってらっしゃい」等と声をかけてくれました。その時、少しねむかったりしても「今日もがんばろう」と思うことができました。ぼく達が楽しく学校生活を送っていただけるのも、交通指導員の皆さんのおかげなんだと思うととても感謝の気持ちがわいてきます。(中略) ありがとうございます。(写真:下)



は、道路の状況が違います。交通事故をなくするにははるき君のように子供の時から関心を持ち勉強して下さい。おじさんの名前がはるき君です。

## 交通安全のおじさん、ありがとうございます

### 北郷小学校で、感謝の朝礼より



広崎・小貫・小坂・西村さん



### 『はるき君』と『おじさん』の往復手紙

交通指導員 (30区) 広崎 洋一

おじさんへ

三年二組のさわだはるきです。いつもみまもりありがとうございます。夏休みの自由けんきゅうで、通学路のきけんを調べたいと思っています。おじさんから見て、きけんだと思うことはどういうことがありますか。おへんじをください。おじさんの名前もおしえてください。水曜日にとりにいきます。また声かけます。

2月3日に札幌市立北郷小学校で催された(交通指導員さんへの)「お礼の会」に出席して、子供達から温かいお言葉と綺麗な花束をいただきました。教職員と子供達のご厚意に感謝しております。私は通学する子供達と挨拶をかわし、子供達の日々の成長を見てきて、

### 朝礼で花束をいただいて

交通指導員 (19区) 小貫 計三

感じるのは、毎朝の啓発活

### よそ見&過速度に注意

東町内会 交通安全部長 小坂恭一

町内の交通安全に努めてきました。とりわけ重視してきたのが子どもたちを交通事故から守ることです。登校時の安全指導やスクールガード活動に取り組んでいます。積雪時期は、雪山で子ども達が見えづらくなっていますので、くれぐれもスピードの出し過ぎやよそ見運転にご注意をお願いします

### 「はるき」君への返書

夏休みの自由研究で通学路の危険を調べるとは、素晴らしいことを考えましたね。おじさんから見た危険だと思ふ事を書き出しましたので参考にして下さい。①交差点をわたるとき、友達と騒がないように。②自転車で友達走るときは横に並ばない。③自宅と学校を往復するとき、寄り道をせず必ず一度自宅に帰る。④雨の日や風の強い日は交差点で一時的に回りを良く確認する。⑤自転車の事故原因は、無灯火と一時停止をしない。

⑥冬と夏とでは、道路の状況が違います。交通事故をなくするにははるき君のように子供の時から関心を持ち勉強して下さい。おじさんの名前がはるき君です。

## 北郷交番の『おまわりさん』も子ども達を見守ります

北郷交番 所長 佐藤 浩行 警部補



昨年残念ながら北郷地区で、交通死亡事故が発生しました。北13条通りで横断中の歩行者1名、そして札幌新道ではオートバイが乗用車にはねられ死亡しました。全道的にも交通事故死亡者数は、4年ぶりに前年より11人増えて、152人の方が亡くなりました。

札幌では飲酒運転に伴う事故が多い事と、死傷者の中で高齢歩行者の割合が高いのが特徴となっています。さて、子ども達が被害を受ける交通事故には、以下の特徴がありますので、特に注意が必要です  
①低学年ほど多い。  
②新入学児童の事故は5月以降に増加する。  
③登下校時の事故・自宅近くの発生が多い。  
④4割以上の子どもたちに違反(飛び出しなど)がある。保護者をはじめ、地域の大人達が見守っていく事が大事です。

表面からの続き

### 【今後の対応方針】

この段階に入ったら、日本国内での感染の拡大はある程度避けられないと考えられます。最終的には、感染から回復してウイルスへの免疫を獲得した人の割合が増え、感染拡大が収束してくるようになるでしょう。その時には、診断法やワクチンなどもできてくると思います。しかし、それはかなり先(半年〜1年後?)の話です。

もし、感染拡大速度が武漢のように速くなってしまつと、なによりも医療現場の混乱が生じます。人の移動の制限や、商業活動の停滞など、経済・社会活動も大きな影響を受けます。高リスク者の死亡例も増えてくるでしょう。今、早急に着手しなければならぬことは、高リスク者の新型コロナウイルスによる死亡率の抑制と、医療機関の機能維持です。

このために、今後いくつかの対策を政府が行つてくれると思われまふ。今回の駒場での対策は、それを一部先取りしたような形になると思います。皆様方におかれましては、どうぞ自分のこととしてだけでなく、社会全体にどのような影響を及ぼすかも考えて、慎重に行動をして頂きたいと願っています。

### 【具体的な対応策】

1. 体調管理  
定期的に検温(できれば毎日)し、37.5℃を超えた場合は、出勤・登校をせず、自宅・自室にて待機しながら体調回復に専念してください。これは、交通機関や職場で感染を拡大することを防ぐ意味もあります。また、なによりも皆さんの免疫機能をウイルスに対して効果的に作用させるためでもあります。とにかく無理して出てくるのは禁物です。
2. 電子的ツールの活用

不要な会議はできるだけ減らし、会議時間を短縮するようにしましょう(中略)。狭い空間に長い時間、人が集まるのはリスクになりますので、最小限に留める努力が必要です。

3. 消毒や手洗い、マスク着用  
これは厚労省なども指摘していますが、多くの人の手が触れる場所(ドアの取っ手やスイッチ、リモコンなど)をアルコール消毒するのは有効です。帰宅時にウイルスを家の中に持ち込まないことも大切です。帰宅後も消毒、入念な手洗い、洗顔、洗髪などを行うことにより、家庭内での感染リスクを低減します。

4. 人混みを避ける工夫  
高リスク者の方は、朝夕の満員電車は感染のリスクが高いので、時差通勤をしてみるのも良いと思います。人混みや、パーティーなども、感染のリスクが高いので避けるようにするのが望ましいと思います。

5. ウイルスに罹ったか心配して不用意に病院に行かない  
症状がひどくない段階(熱が出て2〜3日の段階)において市中の病院に行くと、(実は)コロナウイルス感染者でないのに、他の感染者からウイルスをもらったり、(自分が感染者だった場合は)他の高リスク者の患者にウイルスを移したりする可能性があります。いつ 診断するかについては、各人のリスクに依存しており、政府から指針が発表されております。この指針に従って、的確なタイミングで「帰国者・接触者相談センター」や保健所に連絡するなど、対応を適切な時期に行ってください。

6. 健康メモをつける  
万一感染したときに、治療や感染拡大防止を行うことができます。(以下略)  
<https://note.com/>からの転載です